

複式授業について

中津川市立川上小学校長 中山 英三

1 令和4年度川上小学校の様子

(1) 児童数と学級数

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	6	6	6	2	8	4
学級数	1	1		1		1

- ・ 2、3年生と4、5年生が複式学級。6学年あるが、学級数は4となる。
- ・ 複式学級か単式学級かは、県の示す「学級編成基準」に拠る。
 ※複式学級 → 1年生を含む2の学年 8人 それ以外の2の学年 15人

(2) 授業の割り振り

- ・ 2つの学年の授業を教師一人だけで実施することを、基本的には避けている。2つの学年を二人の教師でみる (team teaching) か、学年2つのうち1つを学級担任以外が受け持ち別の教室で学習するか。

例1) 4、5年生の場合

	国語	社会	数学	理科	外国語	音楽	図工	体育	家庭
4年	担任	県費A	担任	県費A	市費A	県費A	県費A	4～6 年合同	教頭
5年	教頭	担任	市費A	担任	市費A	担任	担任		

※数学と体育で team teaching を実施。他教科は、学年ごとに別々の教科担任・教室で授業を実施。

※道徳は担任。ただし、1学年ずつ時間をずらして実施。

※総合的な学習と学活は担任。同じ内容の授業となる場合が多い。

例2) 2、3年生の場合

	国語	社会	算数	理科	外国語	音楽	図工	体育	生活・総合
2年	担任	県費A	担任	担任	市費A	担任	県費A	1～3 年合同	1年担任
3年	県費B		市費A			担任	県費B		担任

※国語と算数と音楽と体育で team teaching を実施 (音楽は、単元によっては教室を分けて実施)。他教科は、学年ごとに別々の教科担任・教室で授業を実施。

※道徳は担任。ただし、1学年ずつ時間をずらして実施。

※学活は担任。同じ内容の授業となる場合が多い。



県費A・・・県費の非常勤講師 (加配)。「複式学級において、教科指導の充実を図るため、学級担任と学年を分担して指導を行う」最大週15時間。単独での授業実施は不可。

→ 本校の場合、週15時間の配当をいただいている。同時に、市費「特別支援アシスタント」として週4時間の配当もいただいている。

県費B・・・県費の非常勤講師 (加配)。「障害がありながら事情により通常学級で生活する児童生徒への支援」最大週15時間。単独で授業実施は不可。

→ 本校の場合、週10時間の配当をいただいている。同時に、市費「特別支援アシスタント」
として週15時間の配当もいただいている。

市費A・・・市費の非常勤講師。免許をもつ教科について、週10時間以内で授業を行う。授業を行わない時間
は、教室の中の2人目の教師として、児童の学習支援にあたる。

(3) 複式授業の実施に関わって

・学校として「わたり」と「ずらし」、「教科リーダーの活用」を授業の基盤としている。

わたり・・・複式の学習指導において、一人の教師が2つの学年の学習を成立させるために、両方の学年
を交互に移動して指導を行う教師の動き。

ずらし・・・2つの学年の直接指導の過程が重ならないように、指導過程をずらして組み合わせること。

※別紙A3授業展開案参照

・どうぞらすか、どうわたるかが、授業者の教材研究に付け加わる。

2 メリット・デメリット（私見、浅見）

- （複式授業＝少人数）一人一人に目が行き届き、授業者はその学習状況や理解度が把握しやすい。
→少人数を「強み」ととらえ、「個人カルテ」の研究実践を進めている。 ※別紙A3授業展開案参照
- 教科リーダーが主となり授業を進める場面を保証することで、主体的に学習に向かう雰囲気が生まれる。授業
の中での非認知能力（責任感、主体性 等）の育成。
- 全校体制でその指導方法を研究・実践できる。
- （少人数という環境からか）学年間の壁がなくなる。休み時間等も普通に一緒に遊び、上級生が下級生の面倒
を見るという雰囲気が自然と生まれる。また、少人数ゆえ誰もがリーダー的役割を経験できる。
- （複式授業＝少人数）地域との連携・協働による教育活動（ふるさと学習等）の充実に期待できる。
- 「対話的な学び」の具現が難しい。多様な意見に触れる中で自身の考えを醸成するといった点に難しさ。
→少人数の「弱み」に対応するため、「思考のドリル」の研究実践を進めている。 ※別紙A3授業展開案参照
- 他学年の声が気になるなど、特に年度初めは子どもたちにも戸惑いが生じやすい。
- 複式授業実施経験のない教師の方が圧倒的に多く、どうしても戸惑いが生じる。教師数もおのずと少なくなる
ため、一人が受け持つ校務分掌も多くなり、併せて複式授業の教材研究をすべきという環境に置かれることで、
教師の負担感・多忙感につながりやすい。

※本校の様子を、ホームページで積極的に発信しているつもりです。もしお時間が許しましたら、一度訪れてい
ただければ幸いです。複式学級をもつ小規模校の様子が何となく分かるのではないかと思います。

https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/soshikikarasagasu/school/kawaue_ps/index.html

【5年】分数を小数で表す方法を考える活動を通して、どんな分数も直線図で表せることに気づき、分数を小数で表したりそれを利用して大小を比較したりすることができる。【知識・技能】

【4年】問題文に合う数直線図を探し活動を通して、数直線図から数量関係がつかめられることに気づき、数直線図を使って立式の根拠を説明することができる。図を用いて数量の関係を捉えようとする。【思考・判断・表現】

4年(6/6)		5年(4/7)	
時	学習活動	主に指導	学習活動
つ	1 これまでの学習を振り返り、本時の課題をつかむ。 課題 数直線図を使って、どんな計算をするのか考えよう。 2 問題を読み、見直しをもつ。P161 1 問題 問題に合う数直線図を選びましょう。 4つの問題すべてに、80と5という数字があるよ。	算数リーダーの司会で復習を行い、問題を読み課題まで進める。 学習問題に取り組み様子を見届け、算数リーダーの指示の仕方を支援する。 見感がつかめ始める数直線図を提示し、大きさを予想させる。	1 復習問題に全体で取り組む。 $\frac{1}{2} = 0 \div 0$ $\frac{2}{3} = 0 \div 0$ $\frac{3}{4} = 0 \div 0$ (p177 2改) 2 問題を読み、課題をつかむ。P149 問題 $\frac{3}{4}$ 、 $2\frac{3}{4}$ 、 $\frac{2}{3}$ を、それぞれ小数で表しましょう。 課題 分数を小数で表す方法を考えよう
か	2 問題文と数直線図を一致させた根拠を考える。<個人追究> (あ)は(け)です。理由は、1本の長さが5cmで、80cmで何cmか知れないからです。 (い)は(く)です。理由は、1本の長さが5cmで、80cmから何本切り取れるか知れないからです。 (う)は(か)です。理由は、1本の長さが80cmで、その5本が知れないからです。 (え)は(き)です。1本の長さが分かっているから、80cmを5等分するからです。	分数を小数で表す意識を伝える。(2)の大小関係の比べやすさ)。 数直線図から小数で表すこととのくわいになるか予想させる。 アピピちゃんの数直線からわり算をすればよいことに気付かせ、 $3 \div 5$ を筆算で板書する。 筆算をノートのママスに合わせて、丁寧に書くよう指導する。	問題 $\frac{3}{4}$ 、 $2\frac{3}{4}$ 、 $\frac{2}{3}$ を、それぞれ小数で表しましょう。 課題 分数を小数で表す方法を考えよう $\frac{3}{4}$ は、0.5より大きそうだ。 $\frac{2}{3}$ は、2.5より大きそうだ。 $\frac{2}{3}$ は、0.5より大きそうだ。 $\frac{3}{4}$ は、0.5より大きそうだ。
め	3 数直線図を決定させた理由を話し合う。<全体交流> 問題文のそばに数直線図を貼り、数直線図を指し示しながら、一致させた理由を話す。	個人追究を支援する。 個人カルテ A: 筆算を書くときに、除数と被除数を書く位置が逆になる。 -12÷3=4を例に、除数を左に書くことに気づかせる。 B: 3÷5の筆算ができない。 C: 帯分部分を除外して考え、後で整数部分と合わせるよう指導する。	3 >1.2.3に取り組み、<個人追究> 3÷5=0.5 3÷4=0.75で、2と合わせて2.75 2÷3=0.666... 他の人と答えを比べ合う。
め	4 何算で答えがとめられるかについて、算数リーダーの司会で話し合いを進める。 数直線図を指し示しながら、立式の根拠を話し合う。 (あ)下が80倍だから、上も80倍で、 5×80 です。(け) (い)上は5倍で、 $80 \div 5 = 16$ です。(か) (う)下が5倍だから、上は5倍で、 $80 \times 5 = 400$ です。(こ) (え)下が5倍だから、上は5倍で、 $80 \div 5 = 16$ です。(き)	帯分部分を仮分数に直し、帯分数のまま考える方法も挑戦しようアドバタイズする。 小数では正則に表せない分数があることや四捨五入して概数であらわすことがあることをおさえる。 全体で計算方法を振り返りながら、まとめを板書する。 1の取り組み方を算数リーダーに指示する。	4 分数を小数で表す方法を交流する。<全体交流> 算数リーダーの司会で答え合わせをする。 答えを導き出した過程を説明する。 割り切れない場合の処理の仕方について学習する。
め	5 まとめる。 役割分担をして、式と答えを順番に書く。 立式の根拠をもう一度話す。	習熟問題を支援する。 算数リーダーの支援する。 仲間の発言したことをもう一度説明させる。(思考のドリル) 習熟問題を支援する。 仲間指導の中で、丁寧に筆算が書けている姿を認め励ます。 習熟問題を支援する。	5 まとめる。 習熟問題に取り組み。 P149 1.2
め	まとめ 数直線図をかけたば、かけ算やわり算になる理由を見つかることができる。 習熟問題に取り組み。 p161 3 $0 \times 5 = 80$ $0 \div 5 = 16$ 図から立式の根拠を説明する。	習熟問題を支援する。 算数リーダーの支援する。 仲間の発言したことをもう一度説明させる。(思考のドリル) 習熟問題を支援する。 仲間指導の中で、丁寧に筆算が書けている姿を認め励ます。 習熟問題を支援する。	まとめ $\frac{3}{5} = 3 \div 5$ $\frac{2}{3} = 2 \div 3$ $\frac{2}{3} = 2 + \frac{2}{3}$ $\frac{2}{3} = 2 \div 3$ $= 0.6$ $= 2 + 0.75$ $= 0.666...$ わり切れる $= 2.75$ 0.67 帯分数 わり切れない
め	3の図を、数直線図に表す。 既習の2について、数直線図に表す。P158 3等	習熟問題を支援する。 算数リーダーの支援する。 仲間の発言したことをもう一度説明させる。(思考のドリル) 習熟問題を支援する。 仲間指導の中で、丁寧に筆算が書けている姿を認め励ます。 習熟問題を支援する。	6 習熟問題に取り組み。 P149 1.2 算数リーダーが1の答え合わせを進める。 帯分数を小数で表したり商を1/100の位までの概数で表したりする方法をペアで説明し合う。 個別の課題に取り組み。 P260 プラスワン エ、オ 算数リーダーが2の答え合わせを行う。 等号、不等号を決定させた理由を話す。